

<計画策定の背景>

1.本市を取り巻く社会状況

- 少子高齢化と人口減少
- 財政面、人員面の制約
- 価値観・ライフスタイルの多様化
- 自然環境問題
- H28 熊本地震からの復興

2.本市の公園の状況

- 都市公園ストックの一定の蓄積（1,078 箇所、712ha）
- 老朽化施設（遊具、トイレ、ベンチなど）の増加と対応
- 厳しい財政制約

3.都市の将来像

- 上質な生活都市
（市民が住み続けたい、だれもが住んでみたくなる、訪れたいまち）
- 多核連携型の都市構造
- 大規模地震等の災害に対するレジリエントなまちづくり ※レジリエント：変化に対処する能力

<水前寺江津湖公園における課題>

限られた予算の中で、様々な課題に対応する必要がある。

① 環境保全

水前寺江津湖公園の豊かな自然環境、文化資源を、いかに保全し、次の世代につなげていくか

② 利活用（魅力と質の向上）

まちなかにあるオアシスとしてのポテンシャルを活かしきれていない（観光面含）

③ 維持管理

いかに老朽化施設（トイレ、照明灯、ベンチ等）の更新等をしていくか



生物多様性の保全とともに、江津湖の持つポテンシャルを最大限に発揮し、誰もが誇れる、上質な公園空間の創出を実現する。

